

## 6. 沖縄本島沿岸資源調査

1. 期間 Ag1 自1962. 5. 23日  
至1962. 5. 27日 Ag2 自1962. 6. 2日  
至1962. 6. 8日
- Ag3 自1962. 6. 23日  
至1962. 6. 27日 立瀬 自1962. 6. 12日  
至1962. 6. 18日

2. 使用船隻及び乗組員 カムの丸(5トン)ヤンマーディーゼル)1, HP  
減田漁務研究所長 北島幹夫, 金城隆雄 外 臨時漁夫2人

3. 調査機具 ソーダ産及サワラ曳網試験

調査海区 (魚場) 渡名喜沖合, 辺戸岬, 慶良間沿岸, 伊是名, 伊平瀬沿岸

### 4. 調査目的

最近沖縄本島沿岸の漁場は衰微の傾向にあり、漁獲量は漁獲高も減少しつつある。従つて漁船数も次第に減少し漁場価値のなかつた魚場もあるので今回は沿岸漁船の政策策として新漁場の発見と漁法の改良による漁獲高の増進を計る目的で、立瀬、生瀬、一本釣による沿岸資源調査を実施した。

### 5. 試験調査概要

#### 1. 曳網試験

(1) 渡名喜沖合 スigma  $\left[ \begin{array}{l} 2.6^{\circ} - 17' N \\ 127^{\circ} - 16' E \end{array} \right]$

1962年5月23日(旧20日)

渡名喜沖合に於いて曳網試験を実施した。ソーダ産の網、浮上、遊しているが漁獲皆無。水温24°C 気温24.8°C 風向88°

1962年5月24日(旧21日)

再び全魚場で曳網試験開始。0.6時15分サワラ2尾の漁獲をした。  
水温24°C 気温24.8°C

全日 Sigma  $\left[ \begin{array}{l} 2.6^{\circ} - 21' N, 5.0^{\circ} \\ 127^{\circ} - 00' \end{array} \right]$  終日曳網試験 108尾のソーダ産を

漁獲した。水温25°C 気温24.6°C

風向332°

1962年5月25日(旧22日) 前日同様 Sigma  $\left[ \begin{array}{l} 2.6^{\circ} - 21' N, 5.0^{\circ} \\ 127^{\circ} - 00' \end{array} \right]$  に於

て再び曳網試験を同緯81尾のソーダ産を漁獲す。水温25°C 気温24.8°C

1962年5月26日(旧23日) 渡名喜曾根にて曳網試験を実施したボーズ漁獲  
量なし、渡名喜島に向け航走中サワラ2尾漁獲。水温24.2°C 気温25.2  
全 5月27日 天候次第に悪化、帰途につく。

今回の曳網試験海域は例年による曳網量178隻が深い場所に入合い、操業して居つ  
たので思ふ様な漁獲は出来なかつた。

曳網用ボジコは主として〔イカ型 - 日本製〕、ボジコ小柄と日本製防弾ガラス赤目玉  
付式島の羽根をつけた、キジコ漁網5ヶ配列のものと使用したが防弾ガラス網が最優秀  
であつた。漁獲は5本程度の割合であつた。

イカ型キジコは具付と中角とがあるが、具付が良好であつた。

如 伊平瀬沿岸、辺戸崎、伊是名、伊平瀬沿岸

1962年6月7日-8日 1962年6月12日-18日

曳網を曳きつゝ調査実施したが、ボーズ型の調査網、鳥巻も全く見ることが出来なかつ  
た。辺戸崎と厚内沿岸でサワラ1尾の漁獲のみ、その時の水温24°C 気温27.4°  
天候日 風向S.W、2

ハ 1962年6月23日-27日

渡良間沖合に曳網試験実施したが、天候悪く漁獲出来ず帰港した。

## 2. 立網試験

イ) 古宇利島沖合、辺戸崎-古宇利島沿岸

1962年6月3日(伊是名より)、渡瀬崎、古宇利島、連天島の沿岸を小型漁船より魚  
群調査をしたが、魚群の発見が出来ずレンコダイ2尾を漁獲した。(漁獲位置別紙)

1962年6月4日古宇利沖合魚網にて曳網試験を実施したが漁獲なし、別紙海面の位  
置にて、立網5本入れ試験し漁獲なし、古宇利沿岸より辺戸崎に至る海面は殆ど  
平坦で厚紙、辺野谷沖、海面に凹凸の变化があるので、全立網にて立網5本入れ漁網試  
験を実施したが漁獲なし。

その時の水温25.2°C 気温27° 天候日 風向S.W、2 水色3

1962年6月5日雨天の為漁業中止

1962年6月6日伊是名島近くまで曳網試験を実施したが漁獲なし

1962年6月7日古宇利島と厚内沖に沈船あり、全沖近を立網試験を実施したが、殆ん  
ど立網下部より切れ、漁獲に至らず、全沖近に今次大戦中沈没船が長上沈没せりとの部  
落民の話もあり漁獲による、映像を見ると沈船らしきものに写らず、確証は出来なかつた。  
魚場としては、今後調査を継続して、魚群傾斜を確認する必要がある。

※今日の曳網試験で考えられることは、水温が低く鯉の群が北上していなかつたのが原因  
で、水温は24°C 0-25°C 0であつた。

今は水深が上昇するに流つて魚群の集中傾向を認めるものと推定される。又北部 江戸地  
より、古宇利島の100米-200米帯には殆んど平均で一次釣場としては、該当でない。  
今後人工的に漁具を造る必要を感じた。

然し漁況からより漁獲は可能なるものと思われる地域を魚探により探索出来るの確率につ  
いては、同一層の調査調査を必要とする。

● 伊豆名西方漁場( 図面参照 )

1962年6月13日 16<sup>05</sup> 迄に2回立網試験を実施した。

水深27.0米から54.0米の深所で、水深は、ゆるやかな、傾斜で漁獲物はレンコダ  
イ15尾、釣数120回に対し15尾、此の値1尾で漁獲率1.25%を示している。  
全水域はレンコダイ漁場として確認して良いと思う。

尚附記すべきことは餌が5尾以上も取られて居た事は魚群が相当あつたものと思わ  
れるので今後レンコ延層について詳細の調査する必要がある。

伊平福北部漁場( 漁場図参照 )

1962年6月14日

当日は沿岸成層試験と立網試験を2回実施したが夜港は雨故早く漁獲をかつた。立網試験  
では、フカ1尾 ヒメダイ5尾 ハマダイ1尾 レンコダイ4尾 其の他9尾 計35尾  
の漁獲で210回の釣数で、漁獲率1.6%まで好漁場である。

△ ( 魚種別漁獲高次 )

	フカ	ヒメダイ	ハマダイ	ダイ	其の他
№ 1	1	2	2	1	5
№ 2	-	5	2	1	3
№ 3	-	-	4	1	1
№ 4	-	-	0	1	2
合計	1	5	16	4	9

1947年6月15日魚種別、漁獲量

		ハマダイ	レンコダイ	アブダイ	オオヒメ	雑
午	№1	6	—	—	—	—
	2	5	5	—	—	—
	3	5	6	—	—	—
	4	5	—	1	—	1
	5	5	3	—	—	1
	6	—	—	—	—	—
	7	6	2	1	—	—
	8	—	—	—	—	—
	合計	26	14	2	—	2
午	№1	2	—	—	—	—
	2	2	2	—	—	—
	3	—	2	—	—	1
	4	3	1	—	—	—
	5	2	—	—	—	1
	6	1	2	—	—	—
	7	1	—	—	—	1
	8	5	1	—	—	—
	9	2	1	—	—	1
	10	2	—	—	—	1
	11	—	1	—	—	—
	12	—	2	—	—	1
		合計	20	12	—	—

本次試験中最高の漁獲率で  
立網20目網約200本  
に対し81尾の漁獲で0.5  
の漁獲率で当該網は新漁場  
として、十分に確認出来る。

〔立網漁場位置〕

	第1回 6月2日-8日	第2回 6月15日-17日
磯魚場	26° - 18' N 128° - 00' E	26° - 58' 30" N 127° - 47' E
メバル	26° - 47' 30" N 128° - 52' 30" E	
沈場	25° - 45' N 128° - 02' E	
ハマダイ		27° - 13' N 128° - 14' E